

人文学研究所 共同研究奨励研究（三星グループ）

北欧3カ国4都市（&パリ）に見る色彩とジェンダー

人間科学部 星野 澄子

I 調査目的・調査期間・調査地 etc. について

昨年（2007）9月8日（土）から9月14日（金）の6泊7日にわたって、私は「男女共同参画社会先進国にみる色彩によるジェンダーの記号化（ジェンダー・カラー）の払拭状況および斬新な試み」について眼に触れ、日本の現状に新しいセンスを取り込むための手がかりを得るべく、ノルウェー（ベルゲン、オスロ）およびフィンランド（ヘルシンキ）で調査を行ってきました。

実はその前日（9月7日（金））まで、パリおよびコペンハーゲンで学内別枠予算による他の研究目的のための調査に従事しており、聞き取り調査のない日時や交通機関利用の合間をみつけてこのテーマに沿った調査も心がけてきたという事情があるところから、パリおよびコペンハーゲン滞在中に得られた調査結果も併せ、5都市分を総合的にまとめて研究報告いたします。

II 公共機関におけるトイレの表示—ジェンダーの視点から色彩およびマークを検証する

研究発表としては大きな題を掲げましたが、私がここ数年にわたって追いつけているテーマの1つは、トイレの表示をめぐる色彩面でのジェンダー研究なのです。

これから、出張中に写した写真をお示ししますので、今まで日本社会で《当たり前》と思って見過ごして来たことが、世界では少しも当たり前でないと感じ取っていただきたいと思います。

(1) 「男はブルー／女はピンク」は1例のみ

[1578], [1579], [1580] は、9月14日（金）日本に戻ってきたときにJR三鷹駅構内で写したものです。成田空港に着いた途端に再び目にするようになった光景ですが、成田では写真を撮る時間がなく代わりに三鷹駅で写しました。女性トイレはピンク、男性トイレはブルーで色分けされています。

では、他の国ではどうなっているのでしょうか。実のところ今回の出張期間中に、日本のように男女でそれぞれ色分けしているケースを見たのは、次の1例に過ぎません。

[1002], [1003] は、パリ、オペラ座近くの中華レストランで目にしたものです（07/09/03）。

(2) 水分の摂取も排泄も有料

[1460] は、ヘルシンキにある郵便局内ムーンショップで写したもので（07/09/12）、1ユーロ（滞在時、1ユーロ＝170円）の文字が読めます。パリでも同じく1ユーロであり、デンマーククローネでもノルウェークローネでもトイレの使用料金にはほぼ同じ金額を必要としました。

日本人は長い間、「水はタダ」と思ってきました。かつて小さい頃ヨーロッパでは「水が有料」と聞かされたときは驚きましたが、日本でも近年はペットボトルが普及し、水の有料は当たり前になってきています。他方、トイレについては一部の有料トイレを除き、日本では駅など公共施設にはトイレが完備され、無料です。「臭い、汚い」イメージだった駅のトイレも、ずいぶんきれいになりました。仕事のストレスなどから神経性の腸炎を起こしやすい体質の通勤者にとっては、どこで途中下車しても駅のホーム近くにトイレがあるのは心強い味方です。けれど不思議なことに、合計特殊出生率が2に迫る勢いで福祉が充実している北欧の都市やパリでは、ホテルやレストラン、美術館などお金を支払う施設ではトイレは利用できますが、トイレだけを使うのが目的のときはほとんど例外なく、有料なのです。運

賃を払って乗車する地下鉄や国鉄の駅などでもトイレは皆無か、あったとしても有料です。パリのメトロは、まず回転式バーと背丈まである扉という二重構えの改札口が弱者に冷たく感じられ、エスカレーター、エレベーターなし（私が見た限り1駅だけあった）、それにトイレもなし、という状態でこれに不安を感じるフランス人はいないのかと不思議な気がします。水分の摂取が有料なら、排泄も有料なのだ！と実感しました。

(3) 男女ともグリーンで統一されたトイレ

[0935], [0946] は、オペラ座通り街路樹の中に設置されている男女共用トイレです (07/09/01)。マークは男女ともグリーンで、ここでは「Toilettes / Accès gratuit」(トイレ/無料)」と記されています。

[1014] は、国鉄サン・ラザール駅で目に止まったトイレの案内板です (07/09/04)。「RELAIS TOILETTES」と書いてある「relais」は「リレー」ですが、ここでは「休憩室」という意味でしょう。男を●と▼との2つの組み合わせで、女を●と▼と▲との3つの組み合わせで表示しているところに注目してください。「男はズボン/女はスカート」いう西洋服のジェンダーに由来するマークを使わずに、生物学的性差を記号化して男女を示しており、パリと北欧4都市を通して見たただ1つの例でした。これは、日本で改正点を考えるときにぜひ参考になりたいと思います。

(4) 男女&身障者用がすべてオレンジ色で統一されたトイレ

[1079], [1080], [1081] は、シャルル・ド・ゴール空港内にあるトイレです (07/09/06)。ここには、「オレンジは女性用」という発想は全くありません。子どものおむつを換えているらしい母親の姿も写っています。

(5) 男女とも茶系色のタイル貼りのトイレ

[0972] は、パリの「Palais de Justice (裁判所)」にある無料の公共トイレです (07/09/02)。日本では、男性用トイレはブルー、女性用はピンクのタイルを使ってあることがほとんどですが、パリではこのように、同じ色が使われています。

(6) 男女ともブルーで統一されたトイレ

[1037], [1038] は、パリのUNA (全国介護サービス協会) で聞き取り調査を終えて帰ろうとしたとき、ふと気づいて写真を撮ることを許可してもらい写したものです (07/09/05)。大きく書かれた文字、「messieurs (monsieur 男性の複数形)」と「dames (女性の複数形)」の横に、小さなシルエットが描かれていますが、ズボン姿の男性が「休め」の形で脚を開いているのが特色ともなっています。パリとコペンハーゲンでは、日本では今まで見たことがなかった脚を開いた立ち姿の男性のマークを数回見ました。

[1001] は、パリのホテル・ロートレックオペラのロビーで見たマークです (07/09/03)。女性のスカート丈が短く、張りすぎているのが女性らしさを強調するようで気になります。

[1139] は、ベルゲン/フレスランド空港内で見えたマークです (07/09/08)。向かって左から、女性、男性、車イスのマークが同一のブルーで描かれています。

[1207] は、ベルゲンのフィヨルド・クルーズ船内で見えたマークです (07/09/09)。女性、男性がブルーで描かれています。

[1278], [1279], [1280] は、ベルゲン/フレスランド空港内で見えたマークです。3つともドアの色は薄めのブルー、マークは紺で統一されています。(07/09/10)。

(7) 男女とも濃いグレーで統一されたトイレ

[0971] は、[0972] と同様、パリの「Palais de Justice (裁判所)」にある無料の公共トイレです (07/09/02)。2方向から見えるよう、2枚の表示板が架かっていますが、図柄も色も少し違っていることに気づくでしょう。階段を下りようとしたときに見る方の位置にある表示板は、脚を広げた立ち姿の

男性の図柄になっています。

[1049] は、パリにあるレストラン内のマークです (07/09/05)。男性用は省きましたが、全く同じ色でした。

[1276] は、ベルゲン／フレスランド空港内で見たマークです (07/09/10)。向かって左から、ミルクびん、女性、男性、車イスが同じ色で描かれています。

[1384], [1385] は、ヘルシンキ空港内トイレのマークです (07/09/11)。上着とズボン・スカートとの間に線が入っているマークは、ヘルシンキでのみ、初めて見ることができました。茶色の木目のドアに透明の亚克力板に描かれたマークが貼ってあり、センスに新鮮な驚きを覚えました。

(8) 男女とも白いマークや文字が用いられているトイレ

白い文字のトイレの話に入る前に、[1058] の、パリの Champ-Élysées (シャンゼリゼ通り) の白っぽい建物を見てみましょう。この通りでは建物に色彩を用いることは規制を受け、文字も白で書かれています (07/09/06)。

[0978] は、パリにある小さな公園内トイレのマークです (07/09/02)。地にはグリーンが用いられていることも注目されます。

[1100] は、コペンハーゲン市役所内トイレのマークです (07/09/07)。歴史的建築物を市役所に利用しているため、木の暖かさが感じられるトイレとなっているのでしょうか。

[1046] は、パリのショッピング街にある建物内トイレのマークです (07/09/05)。地にエンジ色を用いているのを見たのは、このときだけでした。

[1349], [1350] は、オスロのムンク美術館内トイレのマークです (07/09/11)。地には藍色を、さらに3分の1幅で上部にグレイを用いており、細く赤い線を入れているところにも細やかなセンスを感じます。一応観終えてあともう少しというところで緊急警報が鳴り響き、点検のため館内から出されてしまい、ムンクの「叫び」が盗難にあったときのことを想像することにもなりました。

[1386] は、ヘルシンキ空港内トイレの案内板です (07/09/11)。男女とも胴の部分に線が入っているのは、ヘルシンキのトイレにだけ見られる特徴です。

[1410] と [1411] は、ヘルシンキの《スカンディック・コンチネンタル》ホテル内トイレのマークです (07/09/11)。ここでも服を着た人のマークは、胴の部分に線が入っているという特徴を具えています。光線の加減でしょうか、白というよりは金茶に見えます。

[1459] と [1461] は、ヘルシンキの郵便局内ムーミンショップにあるトイレのマークです (07/09/12)。マークの下に貼ってある紙には、「OUT OF ORDER (故障中)」の文字が見えます。初めにお見せしたように、このトイレを利用するときには、「1ユーロ」が必要です。

[1560] と [1561] は、トランジットのため経由したフランクフルト空港内トイレの案内板です (07/09/13)。色は違いますが、パリで見た [1001] と全く同じシルエットで、女性のスカート丈および張り方は、女性らしさを強調しているように感じます。

Ⅲ 公共機関におけるトイレの表示—ジェンダーの視点から見た変化

(1) 人物像や男女に象徴的な歴史的グッズの図柄などが用いられているトイレ

[0981] と [0982] は、パリのリュクサンブール公園前にあるカフェテリア地下1階にあるトイレのマークです (07/09/02)。ここにもグリーンが用いられ、「POUSSEZ (押す)」と記されています。

[1178] と [1179] は、ベルゲンのフィヨルド・クルーズ船内トイレのマークです (07/09/09)。伝統的な女性らしさ・男性らしさを強調したジェンダー性の強い図柄と言えるでしょう。「KVINNER」、[MENN] はそれぞれ、女性、男性を表すノルウェー語でしょうか。

[1262] と [1263] は、ベルゲンのグランド・テルミナスホテル内トイレのマークです (07/09/10)。

男女ともに黒っぽい、ジェンダーを強調するような西洋服を着ており、「DAMER」「HERRER」の文字が付されています。

[1307]と[1308]は、初めて夕食にreindeer(トナカイ)とcatfishのお料理を注文した、オスロのレストラン内トイレの図柄です(07/09/10)。ここにも「DAMER」「HERRER」の文字が付されています。女性用には、当時の美の基準に適合するよう身体を締め上げたコルセットが、男性用には外出時の帽子が描かれています。このような図柄を見ると、ヨーロッパ社会のトイレは、身体をきれいに整え、広義の化粧をするための場だったことが窺えます。ちなみに日本の住宅では、洗面所、風呂場が分かれて隣接し、さらに家の端の離れた場所に廁があって、その「廁」が「便所」を経て今ではほとんど「トイレ」「化粧室」「お手洗い」などと呼ばれるようになりました。「便所」を「お手洗い」や「化粧室」と呼び変えるのは、遠まわしの婉曲的な言い方ではなく、ヨーロッパ社会の広義のトイレ(Toilets, Toilettes, Toiletten)の構造から導かれる用語であることが、オスロでコルセットのマークを見てさらに納得できました。

[1516]と[1517]は、ヘルシンキ市内にある大聖堂内トイレの文字です(07/09/13)。「D」と「M」の文字のみが付されている無味乾燥なものです。

(2) 男性が脚を開いた立ち姿のマークのあるトイレ

[1069]は、パリのメトロ、フランソワ・ミッテラン広場(place)駅に珍しくあったトイレのマークです(07/09/06)。けれど壊れていて使えない状態でした。脚を開いた男性の立ち姿は、明確に男性と分かる良いデザインだと思います。

[1133]は、コペンハーゲン空港内トイレの案内標識です(07/09/08)。濃いグレイ地に黄色で描かれた脚を開いた立ち姿の男性と隣に並ぶ女性。一瞥して分かります。男女色分けを必要としません。

[1083]も、コペンハーゲン空港内トイレの案内標識です(07/09/06)。現代では、女性もズボン(パンツ)を着用することが多くなり、ズボン姿を男性の属性とすることには問題があります。けれどパリとコペンハーゲンで脚を開いた立ち姿のマークを目にしたときから、これならズボンを履いても男性の生物学的性差は表れていると実感しました。パンツスーツ着用の女性がこのような姿勢をとることは、ほとんど考えられないからです。女性がスカート姿らしいのはやや気になるところですが、スパッツやジーンズとスカート状のものを重ね合わせて着る《埴輪ちゃんルック》を、おしゃれと実用を兼ねて楽しむこともあることを考えると、このマークが直ちに、「女性とは、スカートを着用する人のこと」という発想には繋がらないでしょう。ほぼ2週間にわたってヨーロッパでトイレ関連の数多くの色彩とマークを観察してきて、これが最も良いアイデアであると現時点では考えています。

IV 結び

数年前まで日本社会で、学童のランドセルの色は、《男の子は黒／女の子は赤》と決められていました。けれど、赤と黒は特別な色です。スタンダール著『赤と黒』において、赤は高僧を表し、黒は軍人を表しており、野心に富んだ主人公、ジュリアン・ソレルがどちらの道を歩むのか、2つの道を暗示しています。また、黒は喪服の色でもあり、赤は警戒色、婚姻色を表すものでもあります。世界的に見てこのような特別な色を、日本社会で《男女別・色分けシステム》に用いるのは妥当性を欠くものと言わざるを得ません。さいわい、ランドセルについては2色の強制はなくなりつつありますが、トイレや旅館の風呂場の表示では今なお、赤と黒、エンジと紺などの2色によって男女を識別しています。

ピンクとブルーというジェンダー・カラーによる男女区分けシステムは、日本社会に蔓延する悪しき慣行であり、次世代の子どもたちにとって乳幼児期からの色彩感覚の発達を阻害するものであることは否定できません。男女の識別を必要とするとき、安易に2色で分ける日本的慣行が改められることを切に願うものです。



1578, 1579, 1580 : 9月14日 (金)
 帰国後すぐに写した三鷹駅
 構内のトイレのマーク



1002, 1003 : 9月3日 (月)
 オペラ座近くの中華レストラン (パリ)



1460 : 9月12日 (水)
 ヘルシンキの郵便局ムーミンショップで



0935, 0946 : 9月1日 (土)
 パリ, オペラ座通りにある公共の男女共用トイレ 街路樹の間
 にある。男女色分けはない。



1014 : 9月4日 (火) 国鉄サン・ラザール駅にて
 男女色分けによるジェンダーも西洋服 (男はズボン, 女はスカ
 ート) によるジェンダーも持ち込まず, 生物学的性差をデザイ
 ン化した最高のアイデアと思う。



1079, 1080, 1081 : 9月6日 (木)
 パリのシャルル・ド・ゴール空港にて



0972 : 9月2日 (日)
 パリの Palais de Justice (裁判所) にて
 男女とも茶系色のタイル貼りになっている。



1037, 1038 : 9月5日 (水)
 パリのUNAにて
 男女ともブルーで文字のみ



1001 : 9月3日 (月)
パリ, ロートレックオペラHロビー内



1139 : 9月8日 (土)
ベルゲン空港内



1207 : 9月9日 (日)
ベルゲン, クルーズ船内



1278, 1279, 1280 : 9月10日 (月)
ベルゲン空港内で



0971:9月2日 (日)
0972と同様 Palais de Justice 内のトイレの表示



1049 : 9月5日 (水)
パリ, 夕食を摂ったレストランにて



1276 : 9月10日 (月)
ベルゲン空港で



1384, 1385 : 9月11日 (火)
ヘルシンキ空港で



1058 : 9月6日(木)
パリ, シャンゼリゼ通りの白い文字



0978 : 9月2日(日)
パリにある小さな公園内のトイレ



1100 : 9月7日(金)
コペンハーゲン市役所で



1046 : 9月5日(水)
パリのショッピング街にある建物内のトイレのマーク
エンジ色の地はこれだけ



1349, 1350 : 9月11日(火)
ムンク美術館内



1386 : 9月11日(火)
ヘルシンキ空港で



1410, 1411 : 9月11日(火)
ヘルシンキのホテル(コンチネンタル)内で



1459, 1461 : 9月12日(水)
郵便局ムーミンショップにて。このトイレの使用には1ユーロ
が必要(でも、OUT OF ORDERの貼り紙が…)。





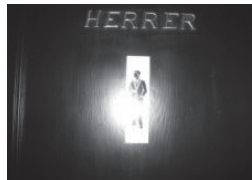
1560, 1561 : 9月13日 (木)
トランジットのフランクフルト空港で



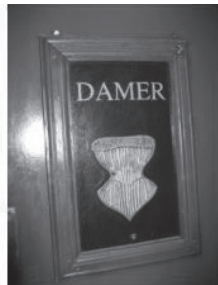
0981, 0982 : 9月2日 (日)
パリのリュクサンブール公園前にあるカフェテリア地下1階にあるトイレのマーク「POUSSEZ (押す)」の文字が。



1178, 1179 : 9月9日 (日)
ベルゲン, クルーズ船内



1262, 1263 : 9月10日 (月)
ベルゲンのホテル (グラン・テルミナス) 内で



1307, 1308 : 9月10日 (月)
オスロのレストラン 男性用 (左) 女性用 (右)



1516, 1517 : 9月13日 (木)
ヘルシンキ市内の大聖堂にて



1069 : 9月6日 (木)
メトロ, F. ミッテラン広場駅で。ただし故障中。



1133 : 9月8日 (土)
コペンハーゲン空港内のトイレの案内標識



1083：9月6日（木）コペンハーゲン空港内トイレの案内標識
男性が脚を開いた立ち姿
パリとコペンハーゲンの何箇所かで見た。この男性と女性のマークが一番すぐれていると思う。